

18. 耐病性イタリアンライグラスおよびソルガムを用いた 周年作付体系の検討

農林水産研究指導センター畜産研究部 1) 畜産技術室

本田香朱美・○小倉初音・阿部菜奈子¹⁾

(共同研究機関：九州沖縄農業研究センター・福岡県・
長崎県・宮崎県・熊本県・鹿児島県・沖縄県)

【目的】

イタリアンライグラスは、西南暖地における主要な寒地型牧草であり、県内でも最も生産の多い飼料作物である。イタリアンライグラスは、平坦地では、9月に播種することで年内に栄養価の高い牧草の生産が可能であるが、高温時の播種はいもち病の発生が懸念される。このことから、九州沖縄農業研究センターがいもち病耐性品種を育成し、九州各県でその利用性について検討を行っている。

そこで本県では、いもち病耐性イタリアンライグラス (Kyushu 1) およびその裏作として紫斑点病耐性スーダン型ソルガム (九州交7号) を利用する周年作付体系を検討した。

【材料および方法】

試験1：いもち病耐性イタリアンライグラスの収量性および耐病性の評価と現地栽培試験

畜産研究部三重試験地では、Kyushu 1、さちあおぼ、およびヤヨイワセを栽培し、1区6m²の4反復乱塊法により収量性および耐病性を評価した。現地栽培試験は、宇佐市の畑および佐伯市の水田で栽培し、収量性および耐病性等を評価した。

試験2：紫斑点病耐性スーダン型ソルガムの収量性および耐病性の評価と現地栽培試験

畜産研究部三重試験地では、九州交7号、峰風、およびラッキーソルゴーを栽培し、1区9.6m²の3反復乱塊法により、収量性および耐病性を評価した。現地栽培試験は、豊後高田市の畑および水田で行い、収量性および耐病性等を評価した。収穫は細断型ロールベアラで行った。

【結果および考察】

イタリアンライグラスの収量に有意な差は認められなかった。いもち病の発生は、耐病性品種であるさちあおぼと比較して、Kyushu 1およびヤヨイワセは有意に少なかった

($P < 0.05$)。スーダン型ソルガムの収量に有意な差は認められなかった。紫斑点病の発生は、峰風と比較して九州交7号は有意に少なかった ($P < 0.05$)。

以上の結果から、Kyushu 1および九州交7号の利用によって病害の少ない高品質な粗飼料を生産できると示唆された。しかし本検討において、県内では天候や収穫方法によってはソルガムの栽培期間が延長し、その結果Kyushu 1の播種適期である9月中旬に播種できなくなると考えられたことから、本試験に用いた耐病性品種を組み合わせた周年作付体系の確立に関しては、さらなる検討が必要である。

※本試験は、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「暖地での周年グラス体系向きソルガムおよびイタリアンライグラスの耐病性品種の育成」(26086C)で行った。